

学術雑誌の電子アーカイブ化に関するアンケート結果

【対象】 J-STAGEに参加している学協会の会員(研究者)
【期間】 平成16年7月30日(金)～平成16年8月16日(月)
【方法】 87学会の事務局に電子メールで依頼。レンタルアンケートシステムによりWeb上で回答。
【回答件数】 2,653件

問1 あなたは、国内の電子ジャーナルをどの程度利用されていますか。

選択肢	回答数	回答比率
ほぼ毎日	172	6.5%
週に1～2回	667	25.1%
月に1～2回	928	35.0%
年に数回	545	20.5%
利用していない	341	12.9%

問2 あなたは、海外の電子ジャーナルをどの程度利用されていますか。

選択肢	回答数	回答比率
ほぼ毎日	735	27.7%
週に1～2回	1,100	41.5%
月に1～2回	430	16.2%
年に数回	195	7.4%
利用していない	193	7.3%

問3 あなたの研究活動に、電子ジャーナルはどの程度必要ですか。

選択肢	回答数	回答比率
絶対に必要	1,982	74.7%
ある程度必要	536	20.2%
どちらともいえない	82	3.1%
あまり必要ない	46	1.7%
全く必要ない	7	0.3%

問4 あなたの研究活動に、他の研究者の過去の研究成果(論文)はどの程度必要ですか。

選択肢	回答数	回答比率
絶対に必要	2,141	80.7%
ある程度必要	476	17.9%
どちらともいえない	23	0.9%
あまり必要ない	11	0.4%
全く必要ない	2	0.1%

問5 あなたの研究活動に、日本の学術雑誌に公開された過去の研究成果(論文)はどの程度必要ですか。

選択肢	回答数	回答比率
絶対に必要	1,238	46.7%
ある程度必要	1,196	45.1%
どちらともいえない	113	4.3%
あまり必要ない	98	3.7%
全く必要ない	8	0.3%

問6 あなたは、他の研究者の過去の研究成果(論文)をどのような目的で利用していますか。(複数回答)

選択肢	回答数	回答比率
自分の研究に似た対象や手法を参考にする	1,987	74.9%
新たな研究テーマを見つけるときの参考にする	1,380	52.0%
論文執筆時の参考文献にする	2,221	83.7%
自分の研究に似た研究が既に発表されていないかどうか確認する	2,070	78.0%
基本となる理論や手法について学ぶ	1,455	54.8%
その他	55	2.1%

その他として、興味教養、講義等の参考、情報収集、動向調査等の回答があった。

問 7 あなたは、他の研究者の過去の研究成果(論文)をどのような方法で探していますか。(複数回答)

選択肢	回答数	回答比率
電子ジャーナルサイトでの検索	1,773	66.8%
文献案内データベースの検索	1,948	73.4%
論文の引用文献から	2,293	86.4%
その他	109	4.1%

その他として、インターネット、雑誌、論文誌等の回答があった。

問 8 あなたは、他の研究者の過去の研究成果(論文)をどのような方法で入手していますか。(複数回答)

選択肢	回答数	回答比率
電子ジャーナルを利用する	2,245	84.6%
オンラインで申し込める複写を利用する	821	31.0%
図書館等で閲覧・複写を利用する	2,170	81.8%
その他	92	3.5%

その他として、知人、本人、業者等に依頼、インターネットで探す等の回答があった。

問 9 電子化されていない論文についてはどうしますか。(複数回答)

選択肢	回答数	回答比率
複写サービスに依頼する	1,547	58.3%
図書館等で探す	2,092	78.9%
無視する	307	11.6%
その他	70	2.6%

その他として、知人、本人、業者等に依頼、少し探してなかったら諦めるという回答があった。

問 10 日本の学術雑誌に発表された過去の研究成果(論文)が電子化されて利用できる仕組み(電子アーカイブ)は、どの程度必要ですか。

選択肢	回答数	回答比率
絶対に必要	1,669	62.9%
ある程度必要	864	32.6%
どちらともいえない	71	2.7%
あまり必要ない	45	1.7%
全く必要ない	4	0.2%

問 11 日本の学術雑誌の電子アーカイブはなぜ必要だと思いますか。(複数回答)

選択肢	回答数	回答比率
回答なし	86	3.2%
知的資産の保存として必要	1,331	50.2%
電子化されると利用するのに便利だから	2,342	88.3%
電子化されないと誰にも使われなくなるから	878	33.1%
自分の論文を保存・公開して欲しいから	369	13.9%
その他	81	3.1%

その他として、情報公開、保管場所の節減、検索ができるから等の回答があった。

問 12 電子アーカイブはどの程度遡って整備する必要がありますか。

選択肢	回答数	回答比率
回答なし	55	2.1%
5年分程度	89	3.4%
10年分程度	650	24.5%
20年分程度	591	22.3%
それ以上	168	6.3%
創刊号から全て	1,100	41.5%

問 13 日本の学術雑誌の電子アーカイブが作られるとすれば、どのようなことを重視しますか。(複数回答)

選択肢	回答数	回答比率
回答なし	58	2.2%
必要な論文を検索できること	2,449	92.3%
電子化された論文同士が引用文献を通じて相互リンクできること	1,223	46.1%
文献案内データベースからリンクされること	1,514	57.1%
一箇所のサイトにあること	421	15.9%
その他	70	2.6%

その他として、検索のしやすさ(Google等でも検索できること等)、価格(フリーアクセス、低価格の論文ダウンロード等)、質(冊子並の印刷ができるように等)に関する回答があった。

問 14 日本の学術雑誌の電子アーカイブは、いつまでに整備されるべきだと考えますか。

選択肢	回答数	回答比率
回答なし	65	2.5%
1年以内	548	20.7%
2～3年以内	1,072	40.4%
5年以内	819	30.9%
5年以上後でもよい	149	5.6%

問 15 日本の学術雑誌の電子アーカイブ化を早急に整備しなければならないとお考えになる理由をお聞かせ下さい。

【主な意見】

海外の主要ジャーナルはすでに電子アーカイブ化されており、日本は遅れている。
早急に整備しなければ、海外との差がますます広がるばかりである。

電子化されない文献は読まれなくなり、引用されなくなる。
電子アーカイブの整備が遅れた学術雑誌は淘汰されてしまう。

電子化が遅れると引用されにくく、無視されることになり、投稿意欲をそぐことになる。
日本の学術雑誌の地位を保ち、さらに評価されるためには早急な電子化が必要。

電子アーカイブは世界の常識であり、整備されないと誰からも見向きもされなくなる。

外国の研究者に入手困難な雑誌に掲載された研究成果は無視されてしまう。
早急に対処しないと、ますます国内雑誌の購読および投稿が減る。

日本の科学研究の国際的発信力を高めることにより、海外の研究者が日本の学術雑誌への注目を高め、雑誌の質の向上が見込まれる。

ジャーナルのインパクトファクタ向上のためにも、早急に電子化し、国内外で広く日本学術雑誌の存在を知らしめる必要がある。雑誌を発刊している学会の活動を活発化するためにも必要。

各研究機関・大学での図書館での配架スペースは年々逼迫しており、過去の破棄されていく冊子体の文献の代わりとして、電子ジャーナルは有用。

近年急速に電子化が進んでおり、数年以内にこの流れに乗れないようではやらないのも同じ。

2～3年以内というのは決して早急ではない。今すぐにも実施すべきだ。

このようなアンケートをいまごろになって実施していること自体、残念ながらすでに手遅れである。

早いに越したことはない。こういうものはタイミングを逸するとできなくなる。

【少数意見】

アーカイブ化は早急にというより、5年計画・10年計画で着実に整備していけばよいのではないかと。

問 16 あなたの年齢をお聞かせ下さい。

選択肢	回答数	回答比率
10歳～19歳	0	0.0%
20歳～29歳	262	9.9%
30歳～39歳	791	29.8%
40歳～49歳	788	29.7%
50歳～59歳	514	19.4%
60歳以上	298	11.2%

問 17 所属機関についてお聞かせ下さい。

選択肢	回答数	回答比率
大学(高専等を含む)	1,696	63.9%
国公立研究機関(独法を含む)	386	14.6%
公益法人	31	1.2%
企業	487	18.4%
その他	53	2.0%

問 18 あなたの研究している分野に最も近いものをご選択下さい。

選択肢	回答数	回答比率
物理	588	22.2%
化学	697	26.3%
生物科学	318	12.0%
宇宙・地球科学	51	1.9%
農・林・水産学	78	2.9%
医学・薬学	347	13.1%
電気・電子工学	141	5.3%
機械工学	197	7.4%
情報・システム工学	38	1.4%
原子力・エネルギー工学	21	0.8%
建設・土木工学	6	0.2%
金属・材料工学	78	2.9%
化学工学	40	1.5%
運輸交通工学	3	0.1%
資源・環境工学	17	0.6%
その他	33	1.2%

問 19 所属学会についてお聞かせ下さい。(複数回答)

主な回答	回答数	回答比率
日本物理学会	721	27.2%
日本化学会	700	26.4%
応用物理学会	373	14.1%
日本薬理学会	263	9.9%
日本機械学会	247	9.3%
日本動物学会	183	6.9%
高分子学会	146	5.5%
日本細胞生物学会	123	4.6%
日本薬学会	123	4.6%
日本分析化学会	72	2.7%
日本表面科学会	65	2.5%
日本高圧力学会	58	2.2%
日本セラミックス協会	56	2.1%
電子情報通信学会	54	2.0%
化学工学会	53	2.0%
石油学会	51	1.9%
日本農芸化学会	49	1.8%
電気学会	48	1.8%
日本生物物理学会	47	1.8%
日本比較内分泌学会	43	1.6%